

特別展

# 久保 守

*M. Kubo*

屋根裏の帝王(1984)



**1997年6月10日(火)-7月20日(日) ◆ 渋谷区立松濤美術館**

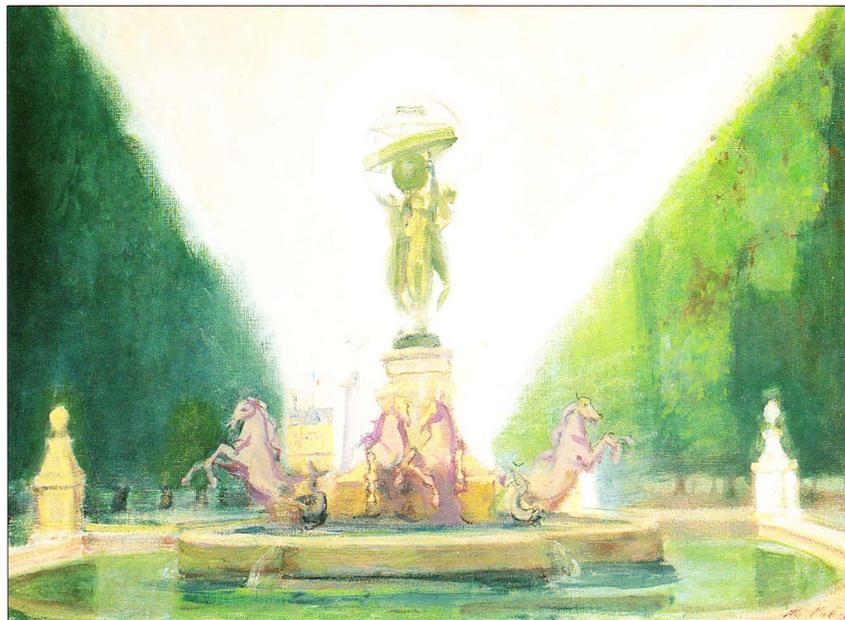
開館時間:午前9時-午後5時(入館は4時半まで) 休館日:毎月曜および7月13日(日) 入館料:一般300円/小中学生100円

特別展  
**久保 守**

1997年6月10日(火) - 7月20日(日)



火精の踊り(1982)



リュクサンブール公園の噴水(1978)

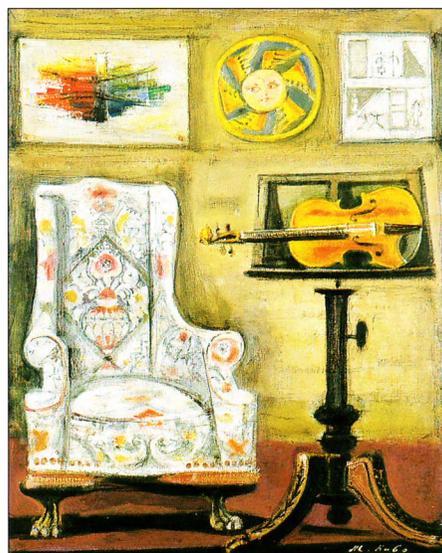
画家 久保 守は明治38年(1905年)札幌に生まれました。兄弟のなかでは、これもどちらかという異端児であった兄、劇作家の久保 栄と共に早くから芸術に親しみ、油絵を描き始めた彼は、上京して大正13年より東京美術学校に学びました。

昭和5-6年のヨーロッパ留学の後、梅原龍三郎の勧めで春陽会から国画会に移籍。昭和7年、27才で国画会会友となり、以後同会を舞台に作品を発表、日本の洋画壇に確固とした地位を築いていきます。

昭和19年、母校の東京芸術大学に戻った久保は、以後27年の長きにわたって後進の育成に携わり、多数の優れた画家を世に送り出しました。

1950年代からは、日本国際美術展、日本国際具象派美術展、国際形象展などにおいても我が国を代表する画家の一人として、理知的でしかも情感あふれる作風で活躍。

久保 守の絵画世界は、初期の写実的な画風から、戦後は立体感を強調した力強い実在感豊かな人物、風景画に変化し、1960年代には、室内の椅子やテーブル、または人物を単純化して組み合わせた幾何学的形態の画面へと変化してゆきます。そののち、アトリエの



ハーモニー(1965)

身近な題材を描いた静物画や室内画の他に、楽器を演奏する音楽家や芝居を演じる俳優など、舞台情景を描いた作品群に独自の画境を拓きました。

その画面には人生の悲喜劇が造形のドラマとなって繰り広げられ、誰もいないステージや、ひっそりと室内に置かれた楽器や静物は形象のハーモニーを奏でています。

東京芸術大学退官後は、1992年暮れに生涯を閉じるまで伊豆高原のアトリエで更なる境地へと制作に没頭。その一途な探求精神は、穏やかな海辺の風景や生きる喜びを歌いあげた花や静物画に、さらには激しい情念を託した心象絵画などとして結実していると言えるでしょう。

久保 守は油彩による具象絵画の可能性を一貫して追求した画家であり、卓越したデッサン力と緊密な構成力にもとづく画面は、都会的な洗練とエスプリを感じさせ、静謐で貴族的な気品を放っています。

本展は、久保 守の全作品の中から代表作を数多く選び、油彩約85点に、デッサン、水彩画などをあわせて120点あまりの作品で構成する没後初めての大規模な回顧展です。

座談会  
**「久保 守の世界」**  
6月28日(土) 2時

**島田 章三**  
洋画家・愛知県立芸術大学名誉教授

**田口 安男**  
洋画家・東京芸術大学教授

**白根 光夫**  
洋画家

開館時間: 午前9時 - 午後5時(入館は4時半まで)  
休館日: 6月16日(月)・23日(月)・30日(月)・7月7日(月)・13日(日)  
および7月14日(月) 入館料: 一般300円・小中学生100円

美術映画会: (2時-3時)  
6月14日(土) NHK シルクロード「敦煌」  
7月12日(土) NHK シルクロード「楼蘭王国を掘る」

美術相談: (2時-4時)  
6月21日(土) 遠藤 原三(油彩)・松島 靖(水彩)  
7月19日(土) 宮田 翁輔(油彩)・水野 道子(水彩)

東京都渋谷区松濤2-14-14  
TEL (03) 3465-9421  
**渋谷区立松濤美術館**  
THE SHOTO MUSEUM OF ART・2-14-14 SHOTO, SHIBUYA-KU, TOKYO